

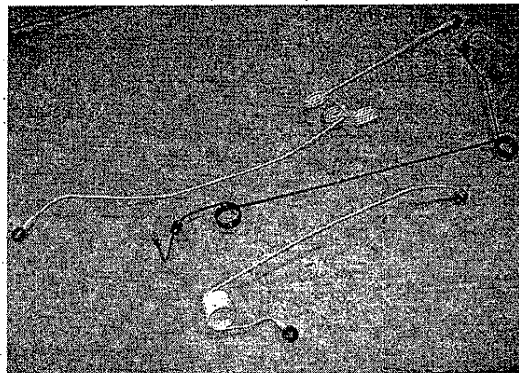
TYPE C  
INDUST

自動車

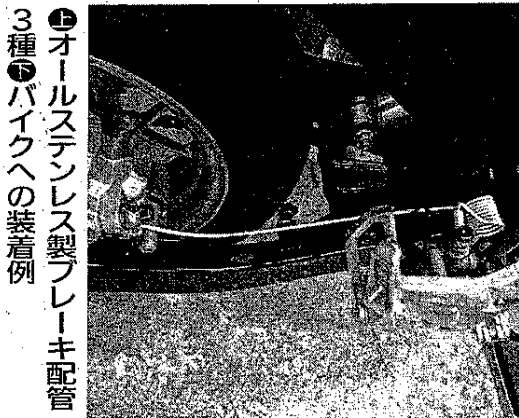
# 旭スプリング ブレーキ配管 耐久性を向上、交換不要 オイルステンレスで開発

旭スプリング製作所(東京都葛飾区、永野智一社長、03・3694・2635)は、自動車や2輪車、航空機向けにオイルステンレス製のブレーキ配管を開発した。従来のゴム配管などに比べ重量は約2分の1で、耐久性を大幅に向上した。油圧の変動に伴う管の膨張がほとんどなく、ブレーキ踏力も少なく済む。8月からリース向けにサンプル出荷し、11月からの量産を目指す。価格は未定。当面の供給能力は日産で100本程度。

オイルステンレス配管は内径2ミ、外径3ミのステンレスパイプにステンレス製流体



部分にコイルバネ形状を採用。パイプと継ぎ手の接合は銀ロウ付けとネジ締め。2タイプ



①オイルステンレス製ブレーキ配管3種②バイクへの装着例

を用意した。ゴムホースと比べ、油圧の変動による管伸縮が少ないため、ブレーキの応答時間などの改善が見込める。西川正雄技術顧問は「ブレーキの応答性は0・0数秒単位で速くなり、踏力も少なく済むため、テコの原理で作動するブレーキ

ペダルも短くできる。ブレーキサーボ(倍力装置)も不要になる可能性がある」という。管の引っ張り強さがゴム製の25倍以上あり、耐食性も高く、自動車自体の寿命と同等以上のため定期的な交換が不要。耐衝撃性の実例では、著名なレーサー、田嶋伸博氏が米国コロラド州で6月に行われた「バイクスピークレース」で同配管を採用し、3位入賞を果たした実績を持つ。オイルステンレスのためリサイクルしやすいのも特徴だ。